



病院図書室研究会

山田 有希子

I. はじめに

病院図書室研究会（以下病図研）は、2005年で30周年を迎えた歴史のある研究会です。その長い歴史に比べると、私は入会してわずか4年目という新人会員ですが、病図研を通してさまざまな経験をすることができました。当室の前任者（石澤實枝氏）が病図研の会長を務めていたことから、直に活動についての話を聞く機会に恵まれたこと、また、私自身が、病図研の機関誌編集委員、ホームページ担当広報委員、研修会の運営補助、公募によるオンラインジャーナル研究グループに参加してから2年半の研究活動、そして設立30周年記念大会（2005年5月13日）の事務局を担当したことで、飛躍的に世界が広がりました。

研究会へ参加してからを振り返り、病図研の現状や私が感じていることなどを報告します。

II. 病院図書室研究会とは？

病図研は「会員相互の緊密な連絡と協力、研鑽により病院図書室の向上、発展」¹⁾を目的に掲げて活動している病院図書室ネットワークです。その目的を達成するため、機関誌・図書資料の発行、研修会・セミナーの開催などの事業を実施し、「病院図書室・医療情報業務担当者の教育および研究活動の支援」、「病院図書室の社会的地位向上のための活動および関係諸団体との連携」、「会員の相互連絡機能の増進と図書資料の共同利用の推進」などを軸として運営さ

れています。1976年の病図研発足時の言葉^{2) 3)}であり、第一の目的であった「病院図書室職員の資質向上」の精神が今もお受け継がれています。

会員は、会の趣旨に賛同する方ならどなたでも入会できる個人会員制度から始まったこともあり、個人会員が圧倒的多数を占めています。

私が何よりも病図研を「すばらしい」と思っていることは、北は北海道から南は沖縄まで、全国津々浦々の会員がいるということです。全国組織であるがゆえ、幅広く多岐にわたる活動が各地で行われており、これらの活動が徐々に認められ、最近では全国紙などにも多数報道されるようになりました（表1）。

近年は患者医療図書サービス支援事業、臨床研修必修化対応支援事業も行っており、社会の動きにも敏感に対応しています。また、出版物も刷新され、私も利用している『病院図書室デスクマニュアル』、9年ぶりに改訂された『病院図書室現行医学雑誌所在目録2004』、30周年記念事業として作成された『患者医療図書サービス—医療情報を中心とした患者図書室』などを代表として挙げるすることができます。

III. 機関誌「ほすびたる らいぶらりあん」はどんな雑誌ですか？

「ほすびたる らいぶらりあん（以下ほすび）」という雑誌名について、他の図書館関連雑誌と違う点にお気づきになったのでしょうか。図書館関連の雑誌名には、通常、建物を象徴する「館」という言葉が含まれることが多いのに対し、「ほすび」は「らいぶらりあん」＝「人」と言

やまだ ゆきこ：東京厚生年金病院図書室
tosho@tkn-hosp.gr.jp

表1. 2003年からの主な「病院図書室研究会」に関する報道実績

日時	掲載	タイトル
2003年12月1日	病院62巻12号	患者とその家族のための資料室と情報提供方法
2004年1月5日	日本経済新聞	患者さんに「読むクスリ」－「医学・健康図書室」広がる
2005年1月1日	朝日新聞	賢い患者術(上) 専門の図書館に足を運ぼう
2005年5月1日	クリニシアン539号	ご存知ですか。「病院図書室研究会」
2005年5月19日	読売新聞	患者図書室 医学事典から健康雑誌まで
2005年5月31日	信濃毎日新聞	広がる患者図書室 東京でシンポジウム
2005年6月22日	北海道新聞	患者が求める医療情報－正しい知識で不安軽減
2005年7月	茨城県病院協会報	患者図書室の設置を

う言葉が含まれています(図1)。これは、病図研が“人と人との繋がり”から創られたことを意味しています。私はこの意味を知って、人と人との繋げる『ほすび』のことがそれまで以上に好きになりました。

2003年には学術定期刊行物にも認定され、内容も充実しています。人気のある記事は特集や研修会の報告ですが、最近、重要性が増しているのは、「ネットワークインフォメーション」という地区の活動を紹介している記事です。全国各地にどのようなネットワークがあるのか、どんな研修をいつ行うかが一目でわかります。こちらに掲載したい情報がありましたら、編集事務局(東京厚生年金病院図書室:tosho@tkn-hosp.gr.jp)までご連絡ください。

IV. 研修会ではどんなことをしていますか？

総会や研修会は、普段なかなか顔を合わすことのできない会員同士が、会って、話して、笑って、教えあって、時には議論をする貴重な場所です。また、私にとっては、研修会に参加するために全国各地へ出掛けられるので、他の図書室を見学したり、旅行をしたり、名物に出遭ったりと、リフレッシュをする大切な機会でもあります。

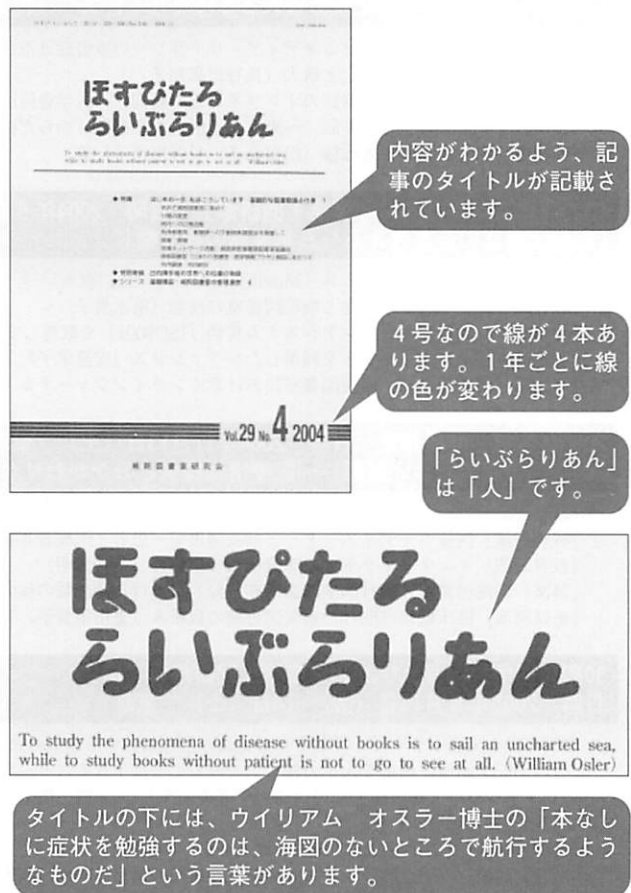


図1. 「ほすびたる らいぶらりあん」表紙

病図研では年1回の総会と、年2回の研修会を行っています。過去の内容を見ると、外部講師による最新の話題に関する講演と、会員が行う実務に即した講座などがバランスよく配分されています(表2)。

表2. 最近の研修会

第28回総会および2003年度第1回研修会 日時 2003年5月23日(金)ー24日(土) 東京
テーマ: 「デジタル時代の病院図書館ー情報の評価とその運用ー」

- [特別講演] インターネット時代に必要な司書の技能 (三輪眞木子)
- [教育講演] 効率的なプレゼンテーション (樫村篤)
- [基礎講座] 利用者教育 (関和美)
- [実務講座] 院内 LAN を用いた病院図書館のホームページ (勇まゆみ)
- [実務講座] インターネットと LAN を用いたホームページ (宮本孝一)
- [グループ研究発表] 所蔵学術雑誌評価と JCR (Journal Citation Reports) (熊谷智恵子)
- [グループ研究発表] 病院図書館担当者として患者に対する文献情報・図書サービスへのかかり方について (第2報) (篠原寿美江)
- [プロダクトレビュー] 等

2003年度第2回研修会 日時 2003年11月7日(金) 大宮
テーマ: 「病院図書館に求められる多様なサービス ~将来像に向けて」

- [特別講演] 医療情報におけるメディア・リテラシーの重要性と市民に対する病院図書館の新しい役割 (菅谷明子)
- [基礎講座] 購読雑誌の選定と購入 (長谷川真知子)
- [実務講座] 出版社系国内雑誌のオンライン化の動向 - 医学書院医学雑誌部の経験から (富永恵夫)
- [継続教育] 新しい患者図書館 - 東京女子医科大学病院「からだ情報館」 (佐藤淑子)
- [勉強会] 病院図書館と著作権 (田引淳子、長谷川湧子) 等

第29回総会および2004年度第1回研修会 日時 2004年5月14日(金)ー15日(土) 東京
「病院図書館の今を考へるー日常業務の総点検」

- [特別講演] 医療情報サービス「Minds」について (山口直人)
- [教育講演] 新臨床研修制度と病院図書館の役割 (清水貴子)
- [実務講座] 品質マネジメントシステム規格「ISO9001」を取得して (藤本衣代)
- [基礎講座] インターネットを利用したレファレンス (安達栄子)
- [グループ研究発表] 病院図書館におけるオンラインジャーナル (川上摩記) 等

2004年度第2回研修会 日時 2004年11月13日(土) 東京
「病院図書館の新しい課題 ~医療情報提供とのかかわりから」

- [臨時総会]
- [特別講演] 医療コーディネーターと病院図書館ー患者と医療者共有の情報センターとして期待するもの (嵯峨崎泰子)
- [教育講演] インターネット上の医療情報の信頼性 (三谷博明)
- [講演] 病院図書館「現行医学雑誌所在目録」における購読数の傾向 (杉山元茂)
- [継続講演] 臨床研修に向けた病院図書館の取組み (重川須賀子) 等

30周年記念大会および2005年度第1回研修会・総会
日時 2005年5月13日(金)ー14日(土) 東京

- 30周年記念大会 テーマ: 「ともに考えよう医療情報 - 病気の知識をもっと身近に」 (一般公開)
- [特別記念講演] 闘病を人生の糧に ~読むことは生きること~ (柳田邦男)
- シンポジウム「患者医療情報について考えよう」 (岡裕爾、廣瀬弥生、新野毅、有田由美子)
- 総括 (柳田邦男)
- 研修会 テーマ: 「病院図書館における未来への展望」
- [教育講演] バイオエシックスへの病院図書館の関わり (木村利人)
- [基礎講座] 相互貸借 (豊田久美子)
- [グループ研究発表] 電子ジャーナル (石川晶子) 等

思い起こせば3年半前、私は初めての研修会に一人で参加しました。最初はとても心細く感じましたが、その時に話しかけてくださったのが先輩会員の方々でした。その後、「裏の研修

会」とも言われる「懇親会」では、緊張がほぐれて日頃疑問に思っていた業務についてのお話ができることを覚えています。「人と人との繋がり」を築くのであれば、懇親会がいちばんで

す。研修会とともに、「裏の研修会」の参加もおすすめします。

V. ホームページはありますか？

もちろんあります。URL は<http://www.bekkoame.ne.jp/ha/jhla/>です。現在のホームページは2000年に公開を開始し、2005年初めにアクセス数は12万件を突破しました。

トップページには季節の写真を掲載し、各種コンテンツや病図研に関する最新の情報が掲載されています。中でも、情報交流の場として活用されているのは「らうんどて～ぶる」という名の掲示板ではないでしょうか。機関誌やマニュアルではどうしても補えない些細なことなど、投稿するとたちどころに返答があります。先日も「相互貸借料金は公費か私費か」という問題提起から活発な議論が交わされました。こちらは会員外の方でも利用と閲覧が可能です。掲示板への書き込みには所属と名前をお願いします。

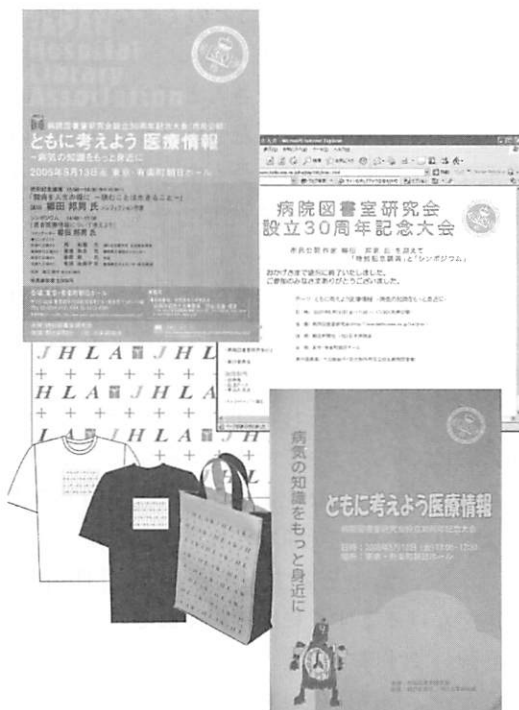


図2. 記念グッズ（上からポスター、ホームページ、Tシャツ、トートバック、抄録集）

VI. 30周年を迎えたと聞きましたか…

2005年5月13日に、朝日新聞社と日本病院会の後援を受け、病図研設立30周年記念大会が開催されました。『ともに考えよう医療情報—病気の知識をもっと身近に』をテーマに、柳田邦男氏の特別記念講演と、医師・看護師・患者・司書によるシンポジウムが行われ、医療従事者と市民が丸となって患者医療情報について考えました。

私は実行委員のひとりとして記念大会に携わり、大会事務局を務め、各種記念グッズの企画制作にかかわりました（図2）。日常業務と事務局の両立は想像を絶するほど大変ではありましたが、得たものも多く、ご指導くださった先輩方や、惜しみなく協力してくれた仲間、そして参加してくださった市民の方々を含む379名の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです⁴⁾。

この30周年大会については多くの新聞社、報道関係者の参加があり、患者さんへの情報提供への関心が高まる中、病図研への取材が相次ぎ

ました。30周年を機に、社会へ向けて病院図書館の存在そのものを少しでもPRができたのは成果だったと思います。

VII. 入会してよかったこと、勉強になったことを教えてください

1. 病図研から得たことを利用者へ還元できます

ひとり職場にとって、病図研なくして病院図書館に関する情報を得ることは容易ではありません。ネットワークがあるからこそ、研修会で学習したり、会員と連絡をとったり、機関誌を読んだり、ホームページを見たりと、他機関の情報を知ることができるのです。それは同時に自分の業務を振り返ることになり、利用者へ還元することができます。

私も研修会に出て、『ほすび』を読んで、院内の看護師への文献検索講習会を始めることができたので、この大切さを痛感しています。

2. ひとり職場では作ることのできない「仲間」 がたくさんできます

病図研の先輩方は、皆さんとても優しく、時には厳しく指導をしてくださいます。先輩方の貴重なお話を聞くのがいつも楽しみです。誇りを持って仕事をしている先輩方を見ていると、気持ちが引き締まる思いがします。

同世代の仲間も、私自身に欠かせないもののひとつです。上司であり、ライバルであり、友人でもある仲間の存在は、自分がひとり職場であるということを忘れさせてくれるほど、日常的に助けていただいています。病院内の職員にはわかってもらえないような、図書室内での些細な悩み・愚痴・疑問なども話すことができます。また、緊急を要するときなど、「Help !」の声をかけるとすぐに助けてくれるので、とても心強いです味方です。その仲間が全国にできたことが、病図研のいちばんの恩恵かも知れません。

Ⅷ. おわりに

図書室の業務を行いつつ、他機関との情報交換が容易にできるのは、先輩方が培ってきた病図研のおかげであると感謝しています。

今回の原稿を執筆するにあたり、病図研の重要性を再確認するとともに、「人と人との繋が

り」を大切にしながら司書を続けていきたいと、気持ちを新たにすることができました。

これからも、他のネットワークや機関との連携をより深めながら、病図研が発展してほしいと願うとともに、私もその力になることができれば幸いです。

参考文献

- 1) 病院図書室研究会会則. ほすびたる らいぶらりあん. 2005 ; 30 (3・4) : 273-275.
- 2) 足立純子 : 病院図書室研究会の発足にあたって. ほすびたる らいぶらりあん. 1976 ; 創刊号 : 1.
- 3) 後藤久夫 : 病院図書室研究会の発足にあたって. ほすびたる らいぶらりあん. 1976 ; 2 : 1.
- 4) 山田有希子 : 30周年記念大会事務局の12ヶ月. ほすびたる らいぶらりあん. 2005 ; 30 (3・4) : 201-205.
- 5) 川口孝泰 : 学会懇親会を利用しよう. ナースのためのプレゼンテーション技法 (JJNスペシャル). 1997 ; 55 : 103.
- 6) 松田明子 : オスラー博士の言葉. ほすびたる らいぶらりあん. 2002 ; 27 (1) : 92.
- 7) 直江理子 : 病院図書室ネットワーク. 日本病院会雑誌. 1999 ; 46 (10) : 1587-1592.